



**この夏は海外で本物の英語に触れよう
カナダの子ども達と一緒にキャンプ参加で夏休みを満喫!!**

8歳から13歳までのお子様向けの夏休み限定短期留学プログラムです。地元カナダの子ども達と一緒に、バンクーバー現地で行われるサマーキャンプに参加し国際交流を図りながら英語や北米文化を体験することが可能です。現地にあるコミュニティセンター主催のサマーキャンプなので中身も充実しておりサポートも万全です。芸術文化や科学・スポーツを通して創造力と協調性を養う地元の子ども達にも大変人気のサマーキャンププログラムとなっております。

プログラム概要

□参加費に含まれるもの：

- ・現地サマーキャンプ(月-金の9:00-15:30)
- ・滞在期間中のホームステイ滞在費用

こちらは個室となり1日3食が費用に含まれています。ホストファミリーとは毎日連絡を取り、お子様の様子を現地スタッフが把握し、何か問題があった場合はホームステイ家族と連携を取り、お子様のサポートを致します。

- ・ホームステイ宅からキャンプ会場までの往復送迎

ホームステイ家族が滞在先からキャンプ場まで車で送迎します

- ・バンクーバー生活オリエンテーション+英語レッスン

現地事務所にて生活オリエンテーションを行います。その際に、現地で必要となる日常英会話レッスンを行います。

- ・滞在期間中の24時間緊急連絡サポート

現地で急病や事故などの緊急事態が起こった場合、サポートデスクスタッフが24時間解決のお手伝いをさせていただきます。

- ・バンクーバー国際空港往復送迎

現地スタッフが専用車でバンクーバー国際空港までお迎えに上がり、ホームステイ先までお送りします。帰国日はホームステイ先から空港までお送りしチェックインのお手伝いを致します。

- ・後見人手配とカナダ側の手続き費用

お子様のカナダ滞在中の後見人を手配し、手続きを致します。

□参加費に含まれないもの：

- ・バンクーバーまでの往復航空券/渡航に関わる費用
- ・海外旅行傷害保険加入費用
- ・現地交通費
- ・外出時の食費/現地でのお小遣い
- ・パスポート申請費用



□プログラム参加期間：1週間～8週間

□渡航可能時期：7月・8月

□参加資格：

- ・8歳から13歳で国際交流に興味のあるお子様
- ・一人で就寝可能なお子様
- ・心身ともに健康なお子様

■サマーキャンプアクティビティ例

- ・グラウスマウンテンでハイキング
- ・アフリカンダンス・ドラム体験
- ・キツラビーチにて海水浴・キャンプ
- ・3D映画鑑賞・公園でスポーツアクティビティ
- ・カナダブレス・ドームへ遠足ピクニック
- ・スタンレーパークでサマースケート体験



サマーキャンプ特徴

1. キャンプ	カナダ現地の子ども達が参加するサマーキャンプなので、地元の子供たちや留学生と一緒にアクティビティ、文化及び芸術体験を通して生きた英語を学ぶことが可能です。
2. 滞在先	ホームステイは現地スタッフが一軒ずつインタビューを行い合格した家族のみの紹介となりますので、安心して滞在可能です。ホームステイでの生活を通してカナダの文化や習慣を学びます。
3. 現地サポート	空港到着時から滞在中、帰国までの間滞在先が円滑に進むようサポートします。また、オフィスはキャンプ主催場所より徒歩5分なので、緊急時も安心でお子様の様子を随時日本にいる親御様にご報告します。また急病などの場合は24時間現地スタッフが対応します。

【プログラム日程】 お申し込み週数に関わらず基本的に日本出発日は日曜日、バンクーバー出発時は土曜日となります。2週間以上お申し込みの場合、キャンプのない土日はホストファミリーと一緒に様々なアクティビティを楽しんで頂きます

	内容	宿泊
日	空路バンクーバーへ出発→同日バンクーバー着、現地事務所にてオリエンテーション+英語レッスン受講後、ホームステイ先へ移動、夕食を取り自由時間、翌日の準備	ホームステイ
月金	8:00 起床 9:00-15:30 サマーキャンプ参加 15:30以降 ホストファミリーと夕食をとり自由時間	
土	午前：バンクーバー国際空港発→	機内泊
日	午後：日本の各空港着	

【2009年度夏参加者の保護者体験談】

この夏、8歳の息子が単身ホームステイを経験しました。息子は体験型のサマーキャンプで、サマーアイススケートにビーチにプールなど、様々な場所へ行ってアクティビティがあるキャンプが本当に楽しかったようです。オフィスから近いので毎日でも息子の様子を見に行ってください約3週間のバンクーバーで初めての3、4日間は心配していた通りホームシックになりました。でも、その時も現地のスタッフのみなさんが24時間対応していただき、私にも常に連絡をして下さり励まして下さって、その時の事を今思い出しても本当に感謝でいっぱいです。まだ小さな子どもを海外へ送り出すというのはとても勇気がいりましたが、今は本当に行かせて良かったと思います。